



ロクハの自然をどうぞ 12月号

公園利用の呼びかけ看板のヒストグラム。公園利用の人だけでなく、すべての動植物を守るために大切なことです。



冬至、忘年会、大晦日、数々日、小晦日、師走、クリスマス、年内、年の暮、クリスマスローズ、冬至梅、ポインセチア、行く年..



イチョウのプロムナードメタセコイアの並木、この月、劇的な変化を見せます。スケスケで寒々とした景色に。



多目的広場に映る、ケヤキの木の影。くっきり見えるのは草がないからか



実だけがぶら下がるモミジバフウ。



初霜はいつか？早朝の観察で確認



水槽の水が凍り付くほど寒気が来るときもある。

野鳥観察

公園で生活する鳥も、この時期に滞在する鳥も、12月は12月らしい行動をします。カレンダーを見るのでなく食べるものに合わせていることがわかります。木々に葉っぱがあるときはそこにつく虫を、実がついていればその身をさがしています。季節が進むと地面に降りてくることがあります。



口をつぐむ・鳴かない鳥としてツグミだそうだが頻繁に短い声「クワッ・クワッ」と地鳴き。広場に降りてミミズを引っ張り出す。



けたたましく鳴く、いろいろな鳴き声が聞かれるので「百の舌」と記される。冬時期でも虫など小動物を狩る。くちばしが猛禽類に似る。



モミジバフウの実にぶら下がり、そこからこぼれる小さな種を食べる。大きな群れになる。



意図してか、ロクハ公園でのこの5種が群れをつくって動いています。エナガが一番多いです。春に生まれた家族を中心に複数家族が合流しているようです。その後をヤマガラやシジュウカラが追います。ヤマガラやシジュウカラは群れのリーダーのような感じです。危険を知らす声は、異種間で共通だそうです。コグラはマイペースで群れについていくようです。メジロも数が多いですが、混群の中に入っている時と離れている時を感じることもありますみんな、公園の留鳥ですが渡り鳥が混じっていることもあります。めずらしいキクイタダキがないか注視します

部分白化のシロハラ R 7期連続滞在

20221216



繩張りで生活する

左のシロハラは、頭部が部分的に白くなっています。それが個体を識別するポイントになり、同じポイントに生活していることを見せてくれました。色々な場所で観られるものも、それぞれの場所で、縄張りを持って生活していると考えられます。左記のシロハラは2024年度途中に見られなくなり公園内で死んだようです。

ます。他の個体が入ってくると追い出します。冬の間見られる、ジョウビタキも縄張り意識が激しくオスとメスの交流もありません。「この場所ではメスばかりに出会う」など感じる時は縄張り生活をしている証です。食べ物の存在が中心です

縄張りは同種に対しては厳しく、異種に対しても発動されます。人に対してもあるように感じます



通常の個体

冬の花 メジロのお気に入り

セイヨウヒイラギナンテン

いよいよ花が少なくなる時期ですが、この時期に花をつけるものもあります。メジロは見逃しません。花から花へ。吸蜜します。花期が長いのもメジロにとってありがたいのです。雪がつもっても

サザンカ



低木なので花の様子が間近で見られる。そんな木にやっくるメジロもさわれそうな場所で見ることができる。複数で見られることが多い

花の真ん中に蜜の玉が見られる。それを自指して器用に首を突っ込む。花びらに足の爪を食いこませぶら下がる。

はっぱは大きくしかも頑丈。安定したスタイルで食事をすることができる。



ミコアイサの換羽

パンダガモの愛称がある姿は③の状態です。飛来のこの時期、最初は①のようじょじょに目の周りの丸い黒がくっきりしてきます。多くの鳥が換羽します。とりわけミコアイサやオシドリのオスの換羽は別種を見ているようです。



サクラの古びた樹皮にびっしりキノコがついています。昨年度ここに、アカハバヒロオオキノコムシがこのキノコを食べに来ていました。日当たりの良い場所です。甲虫類で冬の昆虫としては低い気温でもせっせと動きのが珍しいです。

ハゴニヤツル

ワタムシ・雪虫（アブラムシの一類）



さがしてもいるというわけではありませんが、時々ゴミが飛んでいる野に出会います。あまり風のない時、フワフワと自力で動いているゴミに出会うのがこれ。帽子や服をかざし行き先をさえぎると止まることもあります。雪虫というのは飛ぶことと積雪の関係をつなぐ経験からきているみたいです。



お株

め株

ハマヒサカキ 平和の鐘の近くの生け垣が満開です。日差しがあるときは虫の羽音が聞こえるぐらい集まっていました。ガス漏れかと勘違いするような臭いがあたりに漂っています。ヒサカキというよく似たものもあります。そちらの花期は早春です。



ヤツデの花

かこたかし作の絵本「てんぐちゃんシリーズ」によって知名度が高いヤツデ、時々、この葉っぱを得意げに持っている子に出会います。花はこの時期に咲きます。虫に花粉を運んでもらう花は、冬の時期は大変です。虫がないのですから。少數でも確実に集めるためにおいが強いようです。雌花期には5本のおしへが見えます。雌花期にはオシベがなく真ん中に複数の雌しべの柱頭が見えます。自家受粉を避けるためだそうです

マンリョウ



ジュウリョウ (ヤブコウジ)

赤い実がいっぱい

今の時期に熟す実は結構落ちることなく長く木についています。そのことを知っている鳥たちは美味しいものから食べていきます。どの実も食べてませんからおいしいかどうか分かりません。マンリョウはお正月の飾り物に使われます。万両に対して、千両百両、十両、一両の名前をもらっているものも「寿」感があります



クロガネモチ



野鳥ウォッチング 12月14日 AM10:00から

編集後記 咲く花や虫の数が少なくなり紙面を埋めるのに必死の季節です。
野鳥が飛び交ってくれるのを期待しています。

facebook「ロクハ見守り」
www.facebook.com/rokuhafamily



ロクハ公園HP
<http://www.park-698.net/>

